

I. 事業の概要

2021年度も引き続き新型コロナウイルスの感染拡大を受けた緊急事態宣言等を繰り返す1年間となりました。その間にワクチン接種率の向上により重症患者数は減少傾向にあり、政府は感染対策と経済の両立へ方針を切り替え、無観客による東京2020オリンピックの開催、感染者の減少状態の年末年始に行動制限を解除しましたが、再び若年者を中心に変異株の感染拡大に繋がり、自粛生活に慣れた生活の影響もあり、飲食や購買意欲の低下からサービス業には我慢の1年でありました。

一方、アジアを中心とした国々で感染拡大によるロックダウンで半導体関連工場の閉鎖による影響から日本の製造業まで連鎖的に工場閉鎖し、自動車やパソコン関連商品等の製造低下や、地政学リスクの影響から原油や食品原料の高騰など、仕入原価の負担を価格に反映できないことから収益が悪化する状況となりました。

本団におきましては、九州大学病院の福利厚生施設のタリーズコーヒー店を4月に開店しました。

このような状況の中、九州大学病院の医学の研究を奨励助成し、患者の支援と職員・学生の学事研修等に便宜を図りながら、各種事業の運営に努めてまいりました。

収支については、患者支援等の実施事業では約3,700万円の公益目的支出を行い、ほぼ当初計画に沿った運営を行うことができました。

その他事業については、コロナ禍における自粛生活の影響で外来患者や見舞客の減少によりローソン・ロイヤルホスト・ロイヤル職員食堂事業の収入は微減、WW棟売店及び薬局は調剤報酬額では微増となりました。また、新規に開店したタリーズコーヒー店の過大な予算見込の影響から予算収入は微増となりました。支出については各事業の雇用体制の見直しや経費削減に取り組みましたが、旧コンビニの原状回復費用、新規出店事業の初期投資や感染拡大防止対策により、当期の一般正味財産は約7,000万円減少しました。

II. 事業の内容

事業については、移行時に策定した公益目的支出計画に沿って、奨励助成事業や患者の支援事業を確実に実施しました。また、その他の事業においても、令和3年度度事業計画に基づいて活動を行いました。

(実施事業)

1) 医学研究及び学事研修に関する助成事業(特定寄附)

- ・ 学術研究及び医学研究の助成
- ・ 病院運営の助成
- ・ 臨床看護研修の助成

2) 地域医療の発展及び振興の助成事業

- ・ 医学雑誌発行の助成

3) 患者の慰安に関する支援事業

- ・ 精神科・神経科病棟行事の支援
- ・ 小児科病棟行事の支援
- ・ クリスマスツリー・イルミネーション飾り等の支援
- ・ 入院患者及び家族への宿泊施設の提供

(その他の事業)

1) 院内療養施設等の環境の整備事業

- ・ 外来棟及び各階ディールームの観葉植物設置・管理
- ・ ハートセンター庭園の管理運営
- ・ 外来棟玄関庭園の管理運営支援
- ・ 雛飾り設置の支援
- ・ 外来患者服用飲料水の提供

2) 医療従事者への福利厚生事業

- ・ グラウンド라운드의協賛及び助成
- ・ 同窓会評議員会及び卒業生入会歓迎会の助成
- ・ 看護師等教職員向けマンションの貸付

3) 入院療養に必要な諸施設等の提供事業

- ・ 付添寝具の貸出、病衣の配備
- ・ 入院患者療養設備（テレビ・冷蔵庫・床頭台）の保守管理

4) 必需品の販売・貸付・役務の提供事業

- ・ ローソン九州大学病院店、ウエストウイング棟売店の運営
- ・ ロイヤルホスト九州大学病院店、ロイヤル職員食堂
- ・ タリーズコーヒー九州大学病院店
- ・ 宅急便・電報の取次ぎ及び公衆電話・自動販売機の管理運営
- ・ コピー・ファクシミリサービス

5) 保険薬局事業

- ・ 恵愛団薬局、森の家薬局の運営